



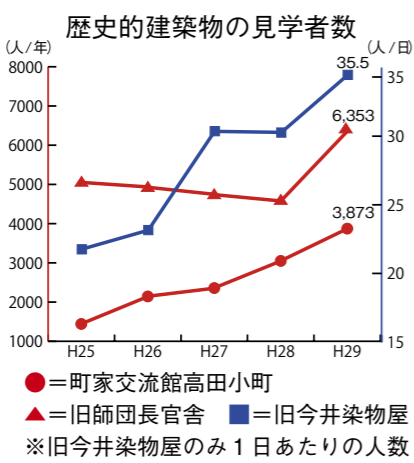
▲盲目の女性旅芸人である高田警女が江戸時代から昭和初期にかけて活躍。写真は昨年イベントで再現された「門付け」の様子

本市は、平成28年に地域再生法に基づく地域再生計画の認定を受け、平成30年3月には内閣府と国土交通省が選定する地方再生コンパクトシティのモデル都市に選定されました。

現在、事業者や市民団体との協働による城下町高田の歴史と文化をいかしたまちづくりとして、日本最古級の映画館「高田世界館」や老舗料亭と連携した誘客・回遊強化、歴史・文化資産を生かした交流拠点づくりに取り組み、定住の促進と交流人口の拡大を図っています。

市の取り組み以外に、事業者や市民団体による自発的な取り組みも広がっています。次のページで詳しく紹介します。

新しい魅力を生み出す挑戦



29年度に見学者が増加しました。

歴史的建築物の来訪者数を調査したところ、町家交流館高田小町、旧今井染物屋の見学者数は、新幹線開業の影響もあり増加の傾向が見られます。旧師団長官舎は、各種メディアで取り上げられた結果、平成

市外からの来訪者が増加



明治時代に建築された町家を再生した「町家交流館高田小町」(左)と日本最古級の映画館「高田世界館」(右)

高田の歴史と街並み

慶長19(1614)年、徳川家康の六男・松平忠輝が伊達政宗ら有力大名の普請により高田城を築城しました。併せて福島城下から武家町や町人の町などが移され、新しい越後の都の礎が形作られました。4代藩主・松平光長の時代に城下町が整い、雁木の街並みも、この頃以降にできたと考えられています。

高田藩解体後の明治期には、石油産業や繊維業などの近代産業が成長し、鉄道網が整備されました。そして、陸軍を誘致したことで人口が増え、洋風建築が多く造られました。明治44(1911)年には、高田市が誕生し、戦争や昭和の高度成長期を経て、現在の高田地区へとつながっています。

「街の再生」

城下町高田の歴史・文化をいかした



旧今井染物屋前の雁木通り

高田地区は、駅、商店街、学校、病院、行政機関などの都市機能や人々が集まる中心市街地であり、高田城の城下町として栄えた歴史や文化、建築物が残る街です。

その高田の街並みを代表する雁木は、町家の軒や庇を張り出して作られた屋根つきの通路で、雪国の冬の通路を確保するために生まれました。

雁木の敷地は個人の所有地であり、町家の所有者がそれぞれ通路を提供することで、総延長日本一の雁木通りが形成されています。

今、雪国の知恵と共助の精神が受け継がれている高田の歴史や文化を生かしながら、街を再生し、にぎわいや交流を生み出そうとする取り組みが進んでいます。

▼問合せ：企画政策課 ☎025・526・5111、内線1452

※今回の特集は、読みやすいように文字を大きく、行間を広めに取りました。